

第6回 松島町長期総合計画策定検討庁内委員会

摘 録

■開催日時 平成26年12月3日（水）
13時30分～16時00分

■場 所 松島町庁舎 3階 大会議室

■出席者

委員：亀井純委員長、千葉繁雄副委員長、福田光輝委員、蜂谷文也委員、相澤光治委員、田瀬高広委員、赤間香澄委員、櫻井和也委員、齊藤恵美子委員、長田大知委員、佐藤綾委員、梁川秀幸委員、高成誠一委員、松谷倫明委員、高橋浩司委員、佐々木弘子委員

欠席者：安土哲委員、鈴木えり子委員

事務局：松村企画調整課まちづくり支援班主査、石田主事、針生主事
中央コンサルタンツ(株)

■次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題 ①松島町の現状と課題の確認（中間報告）……………【資料 1】
②住民アンケート調査結果の概要……………【資料 2】
③Web アンケート調査結果の概要……………【資料 3】
- 4 閉会



■庁内委員会の開催状況

■議事要旨

1 開会

- ・開会あいさつ（事務局）

2 委員長あいさつ

（委員長）

- ・今回は第6回ということで、本町の現状と課題の確認、2つのアンケートの調査結果の概要が出ている。それについて意見交換し、次のステップに進みたいと考えている。現状把握、住民の意向調査が中心となっているが、これを踏まえた次のステップとして、次期長期総合計画の各種事業になっていく。その根拠となる大事なアンケートや現状の課題の整理になるので、忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議題

（事務局）

- ・資料1の説明

「①松島町の現状と課題の確認（中間報告）」について

（事務局）

- ・資料2の説明

「②住民アンケート調査結果の概要」

- ・資料3の説明

「③Web アンケート調査結果の概要」

（委員長）

- ・現況調査の結果について、自分の課が所管する部分の意見を10分間でまとめていただく。事業の達成率が高いのに満足度が低いといった意見でも構わない。

～ 検 討 ～（10分）

（委員長）

- ・各課の意見を願います。まずは総務課から。

(委員)

- ・まちづくりにおける行政と住民の各々の役割が難しいと感じる。出された意見を見ると、どちらがどこまで何をするのが明確ではない。住民参加型のまちづくりに関して今後検討していかなければならない。防災や環境については、以前より不満が少ない部分に関しては、継続か、現在挙げられている主要課題でいいのではないか。防災に関しては、現在取り組んでいると思うので、課題に挙げたままで良い。
- ・全体的な意見としては、産業振興分野における町の主要課題ということで、「松島ブランドの確立に向けた地元への周知」とある一方、「水産物ブランド化の推進」もある。ブランド確立化へ向けて地元の人へ周知している一方、水産物ブランド化の推進をやっていくのか、食のブランドを町がどのように進めていくのかが不明確である。産業におけるブランドの携わり方を主要課題として挙げていくためには誰がどうするのかを明確にすべきである。
- ・地産地消の現状はどうなっているのか。
- ・高齢者福祉施設について、前は高齢者を除くという話になっていたのではないか。
- ・町内における新規雇用の確保について、全体的に見ると、松島で仕事をするというより、他の地域で仕事をし、住む地域というイメージが昔から続いている。町内で新規雇用を伸ばすのではなく、違う道もあるのではないか。

(委員長)

- ・その他所管の部分で意見をいただいたが、住民参画に関する意見があった。皆さんの意見はどうだろうか。住民の皆さんがどのような方法で参画したらいいのか、どのような情報が町からあって、参画できるかといった仕組みが松島町には無い。方法としては、大崎市、東松島市、柴田町が作ったようにまちづくり基本条例を作成すればよい。これがあれば住民が参画しやすくなる。
- ・ブランド化、地産地消に関して、産業観光課から意見はあるか。

(委員)

- ・サンフレッシュで作っている松島トマトの場合、観光客や仙台のデパートなどと提携をしているので、町内に対する周知より、町外に対しての発信力の方が強い。
- ・水産物のブランド化の推進について、松島産のかきは県内の水産割合だと10%未満にも関わらず、松島と言ったらかきというほど有名なものなので、十分にブランド化の推進は行われているのではないか。
- ・地産地消に関しては、町で地産地消実行委員会があり、イベントも開催している。しかし成果が上がっていない。町内産の食材に関しては松島のホテルに卸している。そこで観光客に向けての地産地消という形となっている。個人的な考えだが、地産地消を推進しなくてもよいのではないか。自分の地域だけでお金を回すことにあまり意味はない。

(委員長)

- ・サンフレッシュの話が出たが、新たにいちごをやり始めるということで、皆さんに情報を教えていただきたい。

(委員)

- ・サンフレッシュ松島で新たにいちごの栽培を開始する。12月10日に町外の人に周知するためのお披露目会をやる。それと同時に、サンフレッシュと名古屋の岡谷鋼機株式会社という会社が提携を結び、「マキシマファーム」という新しい農業生産法人を設立した。トマトハウスを1ha増加して年間の売上高1億2,000万円を目指す。パート従業員を20人雇うことになるため、新しい雇用も生まれる。いちごのハウスも今後拡張していくことになれば、いちごのもぎ取り施設があるということで観光客を呼び込むことも可能になると考えている。

(委員長)

- ・岡谷鋼機株式会社は江戸時代からの会社で、サンフレッシュと共同で新たな展開をする。トマトのハウスについてはほぼ倍の面積となり、新たにいちごの栽培も始める。
- ・新規雇用の確保について、住民は雇用の場としてより、住む場所として求めているのではないかという話が出た。これについてはどうか。

(副委員長)

- ・松島町はベットタウンとしての考えがメインになっている。その考え方を重要視するのもよいのではないか。雇用促進できないところに、企業を誘致するにも現実には厳しい状態である。それならば30分で仙台に行ける強みを生かしたほうがいいのではないか。居住環境の視点でみると、店も少なくなってきたいて、必ずしも住みやすい方向に進んでいるという印象はない。その部分を改善していればよいのではないか。ベットタウンとしての視点は現実味がある。

(委員)

- ・アンケートも終盤になると「どちらともいえない」の回答が多くなる。自分たちが住むという、仕事から一歩引いた意見がすごく多い。住民は雇用より住みやすさを重視しているのかもしれない。

(副委員長)

- ・アンケートを作成する際に「どちらともいえない」の項目をやめた方がよいのではないかという意見が出ていたが、実際に「どちらともいえない」が回答の中で一番多かった。結局どのような考え方をしているのかわからない。今回「どちらともいえない」と回答した住民から、今後の10年で松島町に住んでよかったと言ってもらえるようなまちづくりを考えないといけない。

- ・松島町の特徴として市街化区域が全町土の6%しかない。その市街化区域のほとんどが文化財の保存管理計画区域と重なっているため、建築物の高さや形の制限がある。容積率、建ぺい率も厳しいため、2世帯住宅が作りづらいなどの事象が出ている。そのため町外に転出してしまおう人が増え、20代～30代までの出産可能年齢数が県内で一番減少している。家を建てられる場所を更に増やさないともっと減る。国土利用計画もそうだが、課題として含む必要がある。

(委員)

- ・財政に関しては財政基盤がやや不安であるという意見が出ており、行政運営分野でも「不満・やや不満」「重要・やや重要」が多いという結果が出ているので、住民の関心が高いと思う。数年前の夕張市もそうだが、財政破綻した事例を見ると建物が多く建設されていたが、松島町でも現在、復興事業で公共施設の建設が多いので本当に考えてやっているのかと不安に思っている人も中にはいるのではないかと。私たち職員の感覚も今までと扱う金額の大きさが全く違っているので、麻痺しないように気を付けなければならない。

(委員)

- ・交通関係について、JRは町内に駅が7つと多いが、町営バスが不便だと昔から言われている。これに関しては地区ごとのクロス集計の結果があればよかった。松島は町域が広く、地域で全く傾向が異なる場合もあるので、地域ごとの感想もわかればよい。

(委員)

- ・公共施設の建設の話が出たが、今年は避難所を建設しているが、今後の維持費などで財政を圧迫するのではないかと。

(委員)

- ・今年度の予算編成前の各課に回った際の説明は、財政の見通しの資料を提出したが、数年後には財政調整基金がなくなるという結果である。その資料には避難施設の費用は含まれていない。それが含まれると何千万という備品購入費や、維持費が出てくるのでもっとさらに厳しくなる。新しい施設ができれば古い施設と統合するなど検討する必要がある。

(委員長)

- ・避難所、避難施設については、観光客1万人と住民が避難することを想定している。今後は平時利用が課題になってくるが、そうすると指定管理者制度が重要になってくる。利益が出れば指定管理の費用は少なくなる傾向にある。場合によっては、全く利用しないことも1つの案としてあげられるが、利用しないことは施設にとって不健康な状態である。その辺はバランスが必要である。
- ・町営バスのクロス集計の資料はどうなったか。

(事務局)

- ・町営バスのクロス集計について、根廻、初原地区で不満が50%と高い。その次は北小泉で42%、次に本郷と桜渡戸である。満足度が最も高いのは上竹谷の35%で、次に幡谷の28%である。

(委員長)

- ・北部の4区が他の地域より満足度が高い。本郷、初原、根廻は比較的不満が多い。町営バスを利用している住民に聞くと、慣れている方は時間帯が不便とは思わず、たまに利用する住民は使い勝手が悪いと感じている。
- ・松島町の町営バスは70歳以上だと無料で利用ができ、これとは別に福祉タクシーもやっている。この2つをやっている市町村はあまりない。

(委員)

- ・視察してきた所は渋滞が全くない。家がある所は全て平坦で、災害もなく、目的地も集中していた。松島町だと北の方が遠く、渋滞になると難しい。

(委員)

- ・今後計画を作成する上での確認として、若手委員の意見やアンケート結果をどのように計画に反映させていくのか。例えば、町の防災メール活用をしているとあるが、別の会議では防災メールが来たことがないという意見も出ていた。意見として両方出ている中でどのように計画に吸い上げていくのか。それによってアンケートの結果の見方も変わってくると思う。

(委員長)

- ・これが基本となって次の計画を作る。防災メールについては啓発活動が必要となる。
- ・今後はどのような大枠の事業が重要になり、その中の小さい事業は何かということを、現状の満足度と今後の重要度の関係の散布図を中心に考えていく。

(委員)

- ・福祉・保健・医療分野について、全世代から医療関係は必要との結果が出ている。若い世代は子育てをメインに考え、高齢者は自分に対しての医療を考えている。福祉サービスは上限がないので、求めるものは高度になってくるのではないかと。
- ・道路整備関係の不満が個人的に思っていたより少ない。
- ・観光については、松島以外に立ち寄っていない人もいる。松島水族館がなくなったらどうなるのかが心配である。子供が立ち寄る場所がないと、観光客の人数は少なくなる。

(委員)

- ・子育て分野について、若手プロジェクト会議や策定検討委員会から意見が出ているが、子ども子育て計画を策定中である。現在作っている計画も長期総合計画にリンクできるようにしている。随時対応中である。

(委員長)

- ・子ども子育て会議の計画が下半期から始まったが、計画の目的は何か。

(委員)

- ・最終的には子育てしやすい環境を作ることを目的としている。今年は計画自体を作る。来年度は施設の在り方、環境をどうするかといったソフト・ハード両面の検討をする。

(委員長)

- ・女性が住みやすい所か、子育てしやすい所かという話はしているのか。

(委員)

- ・買物をする場所が少ないという話はしている。小さな子供を連れて鹿島台や利府に行くのは大変である。買物する場所が近くにあったほうが育てやすい。

(委員長)

- ・買物がしづらいことが住みにくいということになるのか。

(委員)

- ・子育て環境もある。利府のように、長時間預けることのできる私立の幼稚園や保育所があれば、親も仕事がしやすい。

(委員長)

- ・松島町でも長時間預けることは可能である。

(委員)

- ・公立の保育園としては長いが、私立はより良いサービスがある。

(委員)

- ・土日、祝日に預けることが可能である。最近では勤務先の近くに預けたいという希望がある。広域利用は松島町ではやっていないので、その点で若い母親からは要望が出ている。

(委員長)

- ・やる気になればやれるということか。障害はあるのか

(委員)

- ・代々の担当者からは、わざわざ他の地域に子どもを預けてより高い保育料を払うより、町内の保育所を充実させた方が良いという話を聞いていた。特別な障害はない。

(委員長)

- ・ニーズがあれば検討すればよいのでは。

(委員)

- ・通常の保育料より多く支払う必要がある。

(委員長)

- ・次回の長期総合計画の大きなテーマである。改めて時間を取る必要がある。次回の会議では、子ども子育て計画の情報がほしい。

(委員)

- ・今回のアンケートの回答者は高齢者が多い。若者の意見が欲しかった。教育文化の意見については、「どちらともいえない」の回答が多く、具体策が出てこない状態である。若手プロジェクト会議の意見が記載されているが、肯定意見否定意見ともに納得できるものであった。一方で、図書館が無いという問題については、図書室を利用するといったように、予算の範囲内で充実させているのが現状である。文化観光交流館ができた後の状況は、ホールを使ったイベントをある程度設けている。先日、高校生や中学生に参加を呼び掛けて、若い世代が見に来る率が高いと思われるイベントを実施した。実際の来客数は少なかったが、見に来ていた保護者からは、「託児スペースがないのか」との問い合わせもあり、子育てとも通じる部分があった。今後このような問い合わせが多くなってくるのかと思う。
- ・学校教育に関しては、若手プロジェクト会議の意見に記載されている通りで、子育て世代の意見がもっとほしい。もっと取り組んでいかなければならない。
- ・全体的な意見として、町営バスを利用している人の中でも、自分の家の近くにまで来てくれると思っている人が北部地域に多い。初めて利用する人に運行表を見せると「この時間しかないのか」や「土日に少ない」と驚かれる。

(委員長)

- ・教育に関して質問はあるか。

(委員)

- ・「健全な食育指導の充実」とあるが、食育についての意見が出てきていないような気がした。これから充実させていくのか。

(委員)

- ・地産地消への協力も兼ねて、給食に松島産の食材を多く使用している。

(委員長)

- ・県内産の食材を使用するとコストも高くなるが、50%以上の使用率である。町内産に限ると、町内の産物をどれだけ使用できるかという問題もあり、割合は低くなる。

(委員)

- ・給食表にも記載している通り、米も松島産のひとめぼれを使用している。生産者を学校に呼んで一緒に給食を食べるイベントもある。

(委員長)

- ・私が教育課長だった頃に、漁協から無料で提供してもよいので給食にかきを使用してほしいと要望があった。当時の給食センターの所長に検討してもらったが、以前東松島市でやった際に、残食が多く出たということであった。あたることもあり、好き嫌いなどの問題もあるため実施はしなかった。
- ・30DELUX のコマーシャルはどうだったのか。

(委員)

- ・予算がついていないので、ポスターは貼れるところにある程度貼り、チラシは町の広報に折り込んだくらいである。広告費が課題である。

(委員長)

- ・600人弱の席数に対し、埋まった席数は200人を切っていたようである。

(委員)

- ・策定委員会から出た意見で、「幼稚園児の育成の質の低さ」とは何か。

(委員)

- ・何をもちて質が低いといっているのかわからない。私立に比べれば確かに低い。どう反映させるべきか難しい。

(委員長)

- ・住民からの意見が無いよりは、否定的意見でも言っただけなのは良いことである。それを頭に入れて計画を作らなくてはいけない。

(委員)

- ・交流事業に関して「イベント」の記載が多い。イベント疲れを起こさないかが心配である。施設を利用したイベントであれば、今後は施設の管理者に委託するなど、一つのイベントに集中するようにシフトしていくべきではないか。課題として「様々なイベント」を挙げるのは負担が大きいと思う。

(委員)

- ・確かにイベントが多いので大変である。様々な単発のイベントもやれるが、松島ならではのイベントを絞り込む方法を考えなければならない。

(委員)

- ・観光課としても、ある市町と関係ができるとその度に関連付けたイベントがあるのでイベント疲れがある。一方で何もしなければ交流が見えない。町民が交流人口を拡大できるイベントではなく、相手の市町と行き来ができることを感じられるような仕組みを考える方が妥当である。

(委員長)

- ・イベントは規模が大きいほど悩みが増える。

(委員)

- ・文化観光交流館の条例について、議会の中で質問があり、指定管理者制度を使うか使わないかで議論になった。施設ができてから1年経過しているため、議会から指摘される可能性もある。どのように考えているのか。

(委員長)

- ・指定管理者制度をいつ導入するのかという話である。

(委員)

- ・上層部では導入を考えているのではないかと。個人的には、安定した状態を見てからでもよいのではないかと。文化観光交流センターは、使用者の8割が町民の社会教育系の団体なので使用料はほとんど期待できない。しかし利便性はあり、交通の便を考えると他の施設よりも良い。

(委員長)

- ・松島町では、新施設が完成してからの1年間で、光熱費等経費の実際の額の算出を行うため、指定管理者制度導入までの猶予期間として見る。交流館も1年が経過したので、指定管理の話が出てくる。南相馬市では、文化ホールを作った際に最初から指定管理者制度を導入した。特別イベントを多く開催していたため、客足は増える一方であったが、震災が来た。

(委員)

- ・上水道関係では、安全安心な飲み水の安定供給の満足度が高く、重要度についても高くなっている。震災も発生したので、安定供給に関して今後も継続して力を入れてもらいたいということだと思う。現状としては、人口減少に伴い給水量・収益も徐々に減っていく中で、現在のレベル以上のサービスを期待されているということだと思う。出来る限り計画的、長期的に取り組むをしていく必要がある。

(委員)

- ・下水道については、満足が4割弱ある一方で、3割が「どちらともいえない」のグレーゾーンである。取り組みに関しては、悪い部分を含めて考えないといけない。公共下水道の汚水の整備に関しては、一部地形上整備が難しい場所があるが、ほぼ100%の水準で推移しているので、事業としては達成に近いと考えている。
- ・雨水事業に関しては、治水安全の部分について課題がある。老朽化、施設改築、更新事業については、松島浄化センターの改築に着手していく。将来、下水道についても管の老朽化対策の計画にも着手する。
- ・特に重要と思われる項目で、アンケート回答者の6割が高齢者なので、医療やインフラなどのありきたりな重要項目しか上がっていない。松島の特色である観光・文化継承などが、あまり関心がもたれていない感じがある。60歳以上の方の回答が多いので、若手の回答だけをみれば、52項目の順番がかなり入れ替わると思う。
- ・策定委員会の意見の中で、駅前がさみしいとある。普通は駅を出たら物産展があって、買物ができるというのが、当たり前だと思う。観光客の視点からの利便性も考えるべきではないか。

(委員)

- ・水道料金について皆さんはどう思っているのか。

(委員)

- ・今回のアンケート項目には入っていなかったが、高いと感じる。

(委員長)

- ・県水から水を買っているため高い。町の浄水場だったらもっと安くなっているが、上水道、井戸、県水があるので高い。
- ・下水道料金は高いのか。

(委員)

- ・安い方である。値上げは1度しかしていない。下水道料金を上げる際も、上水道の料金が安いということで、総額のバランスが出てくる。

(委員長)

- ・昔と違い、下水道もある程度の料金を取られるため町民は意識している。雨水対策がまだまだということだが、今回の復興計画で多くのポンプ場を設置するので、雨水の問題は解決する。何年かかるかが問題である。
- ・駅前に関しての意見はないか。駅の近くになぜコンビニが無いのかと感じるが、コンビニの予定地の前を少なくとも 2,000~2,500 人が一日に通らなければいけない。

(委員)

- ・河川・港湾の風水害対策については、重要度が高く、満足度が低いことについては、復旧事業の遅れが原因ではないか。特に港湾に関しては全く進んでいない。今後進んでいけば満足度は上がっていくのではないかと。それに関しては時間が掛かる。
- ・公園と緑地に関しては不満の方が多い。今回のアンケートの中で、どの地域の住民の不満度が大きいのか。そのニーズを見ながら整備を行わなくてはならない。その中で避難場所などを活用しながら、公園としてのニーズに合わせた利用形態を作っていけば問題解消につながるのではないかと。
- ・道路については、全体的な話だが満足度が低い。交通量の多い 45 号線の渋滞や、古くからある市街地の道路が狭いといった問題がある。それを整備するのは難しい。避難道路の整備で少しでも補っていければと思う。また、45 号線の歩道が広がれば観光客、住民に対しても充実していける部分がある。
- ・全体に関しては、ブランド化、地産地消の中で、松島らしい食材・お土産が重要だという結果が出ている。もっと全国的にアピールすることや、商品開発を町全体でやっていけば集客に繋がる。

(委員長)

- ・復興道路ができれば環境は変わってくるのか。

(委員)

- ・幹線となる部分に関しては良くなると思う。

(委員)

- ・建設課で社会実験を 2 回行ったが、結果はどうなったのか。

(委員長)

- ・レポートでは、大型車両の占有率が 20%であった。トラック協会からは 20%しか走っていないのに、邪魔だと言わないでほしいと言われている。しかし普通車と大型車両の 20%は違う。トラックがいなくなるだけで大きく違ってくる。したがって初原バイパスを早めに整備する必要がある。

(委員)

- ・アンケートを取ったが、道幅が狭いとの回答がほとんどである。

(委員長)

- ・石巻の大型運搬会社の人から聞いた話だが、通る道路を会社が指定している。保険の対象になっているので渋滞していてもルートを変更してはいけない。そのため45号線を通行する必要がある。利府街道は通行できないのかと聞いたが、利府街道は狭く、カーブも多いので指定道路に出来ないとのことであった。

(委員)

- ・現在の初原バイパスは、抜けたところに愛宕の交差点があり、そこから先が渋滞するので、回り道をして同じである。観光シーズンは駐車場のキャパの問題もある。

(委員長)

- ・三十刈の駐車場ができれば、駐車場の空き情報を出す必要がある。

(委員)

- ・道路で不満・やや不満が多いというのは、単純に舗装が足りないのではなく狭さ、整備が問題なのか。

(委員)

- ・舗装の整備率は、低い部分がある。しかし、松島は車がほぼ通れないような道路も多いため、狭いことが一番の問題であると考えている。

(委員)

- ・団地を形成している所はある程度道路幅が確保されている。

(委員長)

- ・団地から団地のつなぎの道路が狭い。現在建っている家をよけるわけにもいかず、整備ができない。今は復興道路に力を傾注している。

(委員)

- ・観光については、Webアンケートの結果を見ると、「松島町でどのような観光イベントを希望するか」の回答が、「ライトアップ」や「ご当地食材を使用したイベント」ということで、現在行っているイベントについて重要だと感じている部分がある。今後そのイベントをブラッシュアップし、周知を徹底していくことが重要である。

- ・産業については、マキシマファームのような新しい企業も入ってきて園芸については今後伸びていくと思うので、ブランドの確立などは大丈夫だと思う。担い手不足は松島に限らず、全国どこでもある話なので、解決するのは難しい。新しくできる法人に人を入れるなどして解決していく方が良いのではないかな。また、農業生産の基盤整備が主要課題に挙がっているが、松島のほとんどの農業振興用地は補助整備がほぼ完了しており、これについては農業振興地域に入っていない桜渡戸や初原などの不満が強いのではないかな。
- ・町民アンケートの農林業の部分で、「どちらともいえない」の回答がとても多かった。職業別のクロス集計の結果を教えてください。農業をしている人の意見が重要だと思う。
- ・消防・防災の防災備蓄品の適切な管理についてだが、倉庫にある賞味期限切れの支援物資はどうなるのか。

(委員長)

- ・イベントについては同じことを考えていた。アンケート結果からイベントをより充実してほしいと読み取った。
- ・行政運営に関する否定的な意見、観光課と観光協会の連携不足とは何なのか。

(委員)

- ・連携はしているが、お互いのビジョンが違う。観光課は観光行政の立場から、公共性の高い観光を広くやってもらうための補助金として税金を観光協会に渡す。一方で観光協会は一般社団法人になったことで、自分たちの冠位のために仕事をする意識になってきている。そこがお互いのビジョンの違いであり行動の違いになってくる。観光まちづくりをする上では、観光協会に同じ方向を向いてもらわないと進まない。これについては新しい観光協会の会長と取り組んでいる。

(委員長)

- ・難しい問題である。総合計画で取り上げる問題ではないが割愛するわけにもいかない。

(委員)

- ・障がい者を担い手としたビジネスが動いてきている。それに対する関わり方などどのように考えているか。

(委員)

- ・障害者の雇用に関しては、昨年度アスファーム松島という株式会社を設立したことで雇用が生まれている。課としての動きはなく、あくまでも民間企業の協力である。

(委員長)

- ・防災備蓄品に関してだが、震災時に大量にいただき、多くは旧第3小学校の体育館に入っている。賞味期限が切れているものもあり、処分の必要がある。台帳を作るとよいと言ってきた。処分に困ることになるので被災地に送るのも一つの方法である。

(委員)

- ・台帳は、作成していた。賞味期限が近いものについては、自主防災訓練の際に活用してほしいと総務課に伝えている。

(委員)

- ・東日本大震災ではすぐに非常食が必要になったのか。救援物資として非常食は来るので、町としては、必要最低限のストックで良いのではないかと。町として観光客の分までストックしていくのであれば現実的ではない。

(委員)

- ・炊き出しをした際には、米を炊くための水がなかったので、非常用に備蓄していたペットボトルの水を使った。

(委員長)

- ・各家庭で、3日分の非常食を準備しておくことを習慣づけることが大切なのではないかと。

(事務局)

- ・農林業のクロス集計について、農林業の方からの農業の振興に対する不満・やや不満の合計が41%と、業種の中で最も高い。林業の振興については、農業ほどではないが27%の方が不満・やや不満であると回答している。

(副委員長)

- ・課題にある市街化区域内の未利用地の有効活用では、景観にあまり影響のない場所でも建築に制限があり、その改善が必要である。土地利用に関しても詰めないといけない。
- ・公共交通の課題は、バリアフリーになっている駅が一つもないことである。車いすの人や荷物がある人にとって、松島海岸駅の利用は不便である。話が出始めて15年ほど経っているので重要視しなければならない。次の計画にも引き継いでいく。
- ・情報発信については、町として力を入れている結果が反映されている。
- ・広域行政の推進が課題である。松島町は仙台都市圏の中にあるが、仙台と松島では都市として規模の違いがあるため、もう少し考える必要がある。
- ・Webアンケート結果については、今後の情報の入手方法として、ガイドブックやホームページなどシンプルに入手しやすいものが求められている。イベントなどの結果を見る限り、進む方向としては間違っていないと思う。

(委員)

- ・アンケートの結果は町民懇談会とリンクする部分が多いと思う。

(委員長)

- ・今回の資料は今回のアンケート結果や策定検討委員会の意見を中心に作っている。計画作りは各種アンケートの結果も参酌しながら行う。最初に言ったように、今回の住民アンケートは観光の内容が薄い。何故かという、観光振興計画策定の際にアンケートをとったばかりで、今回 Web アンケートもやっている。他にも、教育委員会の教育振興基本計画を作った際のアンケートもある。現在様々な計画があり、それら全てをまとめてそごがないように計画を作っていく。

(委員)

- ・アンケートの自由記載の欄に書かれた、吸収すべき意見の一覧はもらえるのか。

(委員長)

- ・後日見せる。今日は中間報告であり、細かな資料は準備していない。

(委員)

- ・総合計画をシティーセールスやシビックプライドに戦略的に繋げていく必要があるのではないか。

(委員長)

- ・総合計画の中でしっかりと示す必要がある。シビックプライドの意味を住民がどこまで捉えられるかも問題で、分かりやすい形で書く必要がある。

(委員)

- ・「まちの将来像」について、10年後に重要なことは何かということで、歴史・文化と答えた人は少ない。しかし、総合計画を策定する上でのテーマとして大きく出している。住民はそこまで求めていないのではないか。

(副委員長)

- ・住民からは生活に直結したものが出てくる。

(委員長)

- ・トータル的に考えたときに、今まで大きなテーマとしてきた「歴史・文化の継承と創造」を蔑ろにはできない。一方で、歴史認識・文化意識の薄さもあるかもしれない。
- ・先ほどアンケートの回収率が現時点で23%であり、今後伸びるかもしれないといったが、もう締め切っているのもこれ以上伸びない。

(事務局)

- ・まだ若干アンケートが届いている。どこまで回収するかという話になるが、アンケートの返信用封筒の有効期限が今年いっぱいとなっているので、今年中に届いたものについては集計に含める。

(委員長)

- ・松島町のアンケートの妥当性のある大学の先生に尋ねたことがあるが、23%以上の回収率があれば良いと言われた。今回はそれに届いているので良いと思う。

(委員)

- ・15年前との住みやすさの比較について、北小泉、上竹谷、幡谷の満足度が高くなっている。これは松島町が良くなったというよりも大崎市が発展して買い物が楽になったということが理由ではないのか。中心部の高城、根廻は低い。

(委員長)

- ・その通りである。道路整備が行われたことで北部四区の交通利便性が大幅に上がり、鹿島台や石巻などに行きやすくなった。策定委員会でもそういった人がいる。

(委員)

- ・それを考えるとこのアンケート結果はあまり良くないと思う。

(委員)

- ・15年前との住みやすさの比較について、20代の人から住みにくくなったとの回答が多い。どういった点で住みにくくなったと感じているのか。昔から住みやすさについて意識していたのか疑問である。

(委員)

- ・車を運転するようになって、道が狭いことや渋滞を気にするようになったのではないかと。

(委員長)

- ・これについてはサンプル数も少ないのでなんともいえないが、20代の人が長総のアンケートに答えてくれたことに意義があると思う。
- ・他になければ事務局にお返しする。

4 閉会

(事務局)

- ・以上で第6回松島長期総合計画策定検討庁内委員会を閉会する。
- ・次回の開催は1月7日の13時30分からこちらの会場で行う。

(終了)